

## 賛美歌

君は確かに人の子なり  
夕べの中にこそかの愁いは現れど  
君が悲しみは君自らによって閉ざされる

この賛美歌の流れる聖堂に  
力なく、希望を置き去りにして  
恐れのみを持ち帰るつもりなのか

君の求めるもの  
そして私の求めるもの  
その2つの祈りは逃走の中に消え去ってしまうのか

さだめ  
宿命とは人の爪先にあり

賛むべきは人の希望なり  
ただ見守りたまえ、我が魂の父

悲しみ故に我は進む  
哀しみ故に我は歩む

(1983.12.15)